

文化のチカラ

VOL
10

2019
Winter

Drama



&



Lie

特集.. 演劇と嘘



芸術とは、我々に真実を

悟らせてくれる“嘘”である。 — パブロ・ピカソ

芸術は作られたモノだということは誰もが知っています。しかし私たちはそれらの作品から感動や気づきといった心情の変化を得ています。今号では、総合芸術といわれている舞台を通してその魅力に迫ります。まずは、演出家の宮原さんのインタビューから。

Interview

演出家 宮原 清美



©おがさきゆか

佐世保市生まれ(佐世保北高等学校出身)。九州大谷短期大学 国文学科 演劇放送コース(現・演劇放送フィールド)卒業。福岡の劇団「空間再生事業劇団GIGA」に所属し国内公演・韓国公演にメインの俳優として出演。その後、拠点を東京へと移し現在はフリー。各地の劇場や市民の方々を演劇で繋ぐワークショップでファシリテーターとしても活躍している。また演技トレーナーとして若手俳優や声優の育成も務める。2018年佐世保市と札幌市の女優6名にて創作したアルカス演劇さーくる×吟ムツの会「マグノリアの花たち」を演出した。

短大では演劇を専攻されていますが、
もともと演劇には興味があったんですか？

高校時代は演劇部に入っていたのですが、高校演劇の地区大会にその短大の先生が審査員としていらっしたんです。演劇って興味ですものだと思っていましたが、専門的に学べるものだと知り、ただ純粹に学びたいという気持ちで演劇コースへの進学を決めました。

高校で演劇部に入部したきっかけは？

私は子どもの頃、自分の思っていることを言うのが苦手で、「どうしてもっと上手く言えないんだろう」と思うことが多々ありました。そういう思いをスポーツや勉強で昇華できる人もいますが、私の場合は演劇でした。普段は言えない事もお芝居では言える、とい

うこともありましたが、役を通していろんなことを経験し、感じたことを素直に言えるようになりたいと思ったのがきっかけです。あとは、小さい頃のクリスマス会でやったお芝居が、大人たちに褒められたのが大きいですね（笑）

高校生の時に自分というキャラクターに生きづらさを感じていたのでしょうか？

そうですね。それを演劇で解放してきたのだと思います。そして演劇を続けていく中で「こう行動しても良いんだ」「これを言っているんだ」という

「いいんだ」という気づきがあり、お芝居を通して変わったことがたくさんありました。社会の中だと自分の感情を抑えたり、

言いたくないことを言わなければならなかったり、嘘をついて演技してしまっていることがあるかと思えます。ですが、舞台上で嘘をついて演じると、お客さんにそれがバレてしまうので、私たちは本気の感情でぶつかり合います。それこそ嘘なの



“嘘”を演じることで真実の感情になる

か本当なのか分からなくなる程です。その「嘘」だけと本当「本当だけと嘘」という現実と嘘の境界がわからなくなるところが演劇の面白さの一つだと思いますし、この面白さによって自分を解放できたのだと思います。

宮原さんが思う演劇の魅力はなんでしょう？

先日佐世保と札幌で公演した「マグノリアの花たち」では5回公演にも関わらず1度も同じ公演にはなりませんでした。お客さんの呼吸や涙で、その場の空気が大きく変わった

からです。演劇は総合芸術なので、それぞれの好きなことをやりたい人がたくさん集まる場所です。音響、照明、衣装、セット、ヘアメイク、様々なジャンルの人がいます。そこに観客という役割を担ったお客さんが存在することで、演劇が成り立ちます。そうやってみんなで一つの作品を作るところや、観客と一緒に場をつくるライブ感が演劇の魅力だと思います。

宮原さんは公演や演劇のワークショップなど、佐世保でも積極的に活動をされていますね。

私は家庭や学校、仕事以外にも、表現できる場を持つことは非常に大事だと思っています。しかし、佐世保はいろんなストーリーがある街なのに、観光以外の出会いの場が少ないと感じています。「劇場は共に考え合う場所、コミュニティを創り出し人間や社会を



再生させてくれる場所」という私の好きな言葉があります。本当にその通りで、私は演劇を通じていろんな出会いをさせてもらったので、佐世保にも演劇で生まれるコミュニティを作りたいという思いで活動を続けます。

くる人々

～舞台に情熱をかける～

宮原清美さん演出作品の紹介

マグノリアの花たち

宮原さん演出の「マグノリアの花たち」は美容室が舞台となる作品。美容室でも何でもないただのステージが、作りこまれたセットや俳優たちの細やかな動きで本当の美容室であるかのように見えるこの舞台は、誰がどのように作り上げたのでしょうか。

「マグノリアの花たち」(原作:ロバート・ハーリング)

1987年にニューヨークで初演が上演され、それを原作とした映画が1989年に公開された作品。1980年代のアメリカ南部のとある美容室を舞台に、そこに集まる6人の女性たちが力強く生きる姿が描かれている。2018年9月・10月に、吟ムツの会(札幌市の俳優ユニット)とアルカス演劇さーくる(※)がタッグを組んで札幌と佐世保で公演を行った。

※2003年～2009年に実施していたアルカスSASEBO主催の演劇事業の一つ。2014年より再始動され、地元劇団とプロジェクトごとに公募される市民が、一緒に演劇作りを行っている。



佐世保の演じ手

MIYA



みや

(劇団楽園天国)

1982年佐世保生まれ、佐世保育ち。ダンス、市民ミュージカルなどの活動を経て2010年劇団楽園天国に入団。裏方から始まり、2011年より役者として活動。殺陣・インプロなど新たな分野にも挑戦し、佐世保内外にも幅を広げて活動中。

マグノリアの花たちに出演させて頂いたことは本当に良い経験でした。素敵な役者さんや演出家と一緒に、芝居ととことん向き合った一か月で得たものは本当に大きく、自分自身成長できたと思っています。そして芝居をずっと続けたい、こんな楽しい世界があることをもっと多くの人に知ってほしいと改めて強く思いました。2月に公演する「晩鐘」は再演ですが、この経験を経て前回よりさらに良い芝居に出来るはずだと思っています。私たちが作る舞台を、ぜひ佐世保のみなさんに観て頂きたいです。

Shizuka Shibata



柴田 静香

(劇団楽園天国)

1981年佐世保生まれ、佐世保育ち。2001年に劇団楽園天国に入団。俳優活動が続けながら舞台演出も手掛ける。地元佐世保でしかできないお芝居を作るべく日々活動している。近年は子ども向けの演劇ワークショップの開催や、市内中学校演劇部の外部講師など、幅広く活動中。

マグノリアの花たちに参加して、札幌の女優さんと宮原さんからたくさん刺激を受け、演劇には人に影響を与える力があると改めて実感しました。2月16～17日に佐世保市栄町のLIVE & BAR Blue Mile(ブルーマイル)にて、私が演出を手掛けている楽園天国が主催する公演「晩鐘」に出演を予定しています。マグノリアで感じたこと学んだことを活かし、観に来て頂いた方に何かしらの影響を与えるお芝居をしたいと思っています。



嘘をつく



企画会議にキャスト調整、
お金の工面に広報活動…
演じるだけが舞台じゃない!

マグノリアの花たちが できるまで

足掛け2年!

解説: 畠本 哲郎

アルカスSASEBOの事業部職員。「マグノリアの花たち」の上演にあたり、制作として全体の調整を担った陰の立役者。

START

④ 上映作品決定!

宮原さん・吟ムツの会、
初対面 & 読み合わせ



この時の読み合わせにより、ようやく「マグノリアの花たち」に落ち着きました。最初は演出家とキャストの意見が食い違いましたが、なんとか決まって一安心です。

② 上映作品検討開始!

候補作品が挙がるが
札幌キャスト陣
(吟ムツの会)
からNG!



演出家・宮原さんが「マグノリアの花たち」を提案。札幌キャスト陣またまた難色を示す。

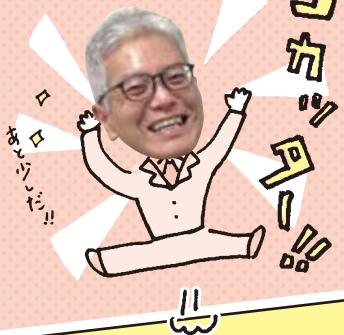
2016年11月~

企画会議(という名の飲み会)吟ムツの会(札幌市の俳優ユニット)とのコラボ公演の案が話に挙がる。



おもしろいものを作れるかどうかはここで決まります。みんなの意見を聞くには、やっぱり飲み会が一番かも。

文化庁の助成事業・
北海道の文化財団の助成事業に
申請し、無事採択!



⑥ ドラマターゲット決定

ドラマターゲットとは演出を補助するスタッフのこと。今回は1980年代のアメリカ南部が舞台だったので、当時の時代背景などを研究してもらい、演出に役立てました。

「マグノリアの花たち」
上演許可の目途が立つ

英語で書かれた契約書とにらめっこ。海外の作品は上演許可をもらうのに一苦労です。

とある財団の
文化活動助成事業に
申請するも不採択…



やっとここまでこれた!

初顔合わせ、プレ稽古@札幌
ポスター・チラシ完成

デザイナーとの打合せが難航し、スケジュールより遅れて完成。札幌・佐世保のいろんな演劇公演にせっせと折込みました。

2018年9月29・30日
札幌公演

2018年10月19・20日
佐世保公演

小道具収集のために、公演前日に100円ショップに駆け込みました。直前までドタバタです。たくさんの方のご協力のおかげで無事に札幌公演終了。

⑨ 本稽古@札幌

9月6日に北海道胆振東部地震発生。「こういう時だからこそ」という思いでなんとか上演にこぎつけました。

GOAL!

次回作へまだまだ続く...

東京と佐世保。遠く離れた全く異なる環境で、同じように舞台に力を注ぐ人々がいます。

東京

で嘘と生きる

芝居の世界でマルチに活動しているらしいですが、本業は何になられるのでしょうか？

作家が本業ですね。一番きついで。

俳優は現場にいったら他にも人がいますが、劇作家はひたすら一人で考えるものなので、一番しんどいです。やはり仕事はきついのものだと思いますので、職業は劇作家だと言っています。

劇の脚本を作る時は、どこから考え始めるのですか？

設定やシチュエーションから考えることもあれば、キャストینگから考えることもあります。2019年3月に東京で上演する森田剛さん主演の「空ばかりみていた」ではキャストینگから考えました。前々か

ら一緒にやってみたいと思っけて、森田くんをメインに考え、他の人物やストーリーを組み立てていきました。

ドラマ・映画と舞台の間にある違いはなんなのでしょうか？

芝居をするという根本は同じなのですが、アプローチの方法が違います。僕が良く言っていることなのですが、映画は山頂、演劇は谷底を見ている仕事です。映像は切り取りの作業で、良い場面を撮影することを目指します。良い場面が撮影できれば、そのシーンはそれで終了です。しかし演劇はそうではなく、今日と同じ演技が次の日も出来るわけではありません。演劇の場合は「最低ここまで」という谷底を上げる作業に



岩松 了

Ryo Iwamatsu

長崎県川棚町出身。劇作家、演出家、俳優、映画監督など幅広く活動中。1989年「蒲団と達磨」で第33回岸田國士演劇賞、1998年「テレビ・デイズ」で第49回読売文学賞、1997年映画「東京日和」で第21回日本アカデミー賞脚本賞など数々の受賞歴を持つ。

なり、そのために何度も繰り返し稽古を行います。

岩松さんの稽古は演者から「1000本ノック」と言われているそうですね。

繰り返し稽古を行うことで、言葉の意味をそぎ落としていくんです。例えば「おかえり」という一言は、意味はあるけれども、普段意味を考えて言う人はほとんどいないですよ。ね。「嫌い」という言葉も、本当に嫌いだとは思っていない場合もあります。最近の俳優は言葉の意味を考えて芝居する人が多いですが、必ずしも言葉の意味が全てというわけじゃないと思います。そういう訳で「おかえり」という一言でも、意味をそぎ落とすために何回でも稽古を

繰り返し返しています。

佐世保の劇団「劇団HIT! STAGE」と交流があるのですが、出会いのきっかけはなんだったのでしょうか？

劇団HIT! STAGEとは、もともとアルカスASSEMBOの演劇事業で知り合ったのですが、とてもやる気がある人たちだったので、その後芝居や脚本のアドバイスをしています。演劇がお金になりにくい地方で、演劇を続けている人には頑張ってもらいたいという思いがあります。僕は長崎が郷土なので、長崎で活動が続いている他の劇団も応援したいと思っています。



Lie



© n-styleフォトグラファー 佐々木典子

岩松さんは、私たちに地域演劇の在り方と目標を示してくださいました。岩松さんには岩松さんのステージ（東京）。私たちには私たちのステージ（佐世保）。そこで自分らしさを発揮すれば、演劇なんて何処でもできる！その教えを胸に、佐世保から「劇団HIT!STAGEらしさ」を発信し続けます！3月17日に佐世保市比良町のマシマ珈琲店にて「ことばとうごきで あそぶ オノマトペ」という読み聞かせプロジェクトを行います。そこで少しでも「私たちらしさ」を表現できればと思いますので、ぜひお越しください!!

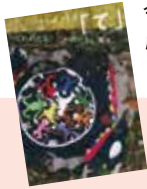
佐世保

で嘘と生きる

劇団 HIT!STAGE

1997年結成の佐世保の劇団。メンバーは全員女性。佐世保をはじめ、福岡・東京など全国へ公演を行っている。平成26年10月新人戯曲賞最終候補作品「血の家」を福岡・韓国で公演するなど、精力的に活動中。

今回みた作品・ハイバイ「て」



©土谷朋子(citron works)

劇団ハイバイの代表作。父のせいでバラバラになった家族が、祖母の認知症をきっかけに全員集合する様子が描かれた家族劇。



50代♀
会社員



30代♀
デザイナー

嘘のないぶっちゃけトーク

はじめての観劇



30代♀
広報



20代♀
公務員

Q 自分から行かない？
A 自分で情報を検索して、積極的に足を運ぶことはないかも。演劇のチラシを見ても内容がほとんど分からない事が多いので行きにくいですね。今回観た演劇はせっつく良い作品なのに、もつたいたいと思います。もつと分かりやすいキャッチーな言葉があれば、行きたいと思う人が増えるんじゃないかと思えます。(広報)

Q この演劇は30000円でしたが、またこの値段で演劇を見に行きたいと思いませんか？
A 手頃だと思えます。誰かに誘われたなら、また行ってもいいかな。(広報)

Q 演劇に対する今までのイメージは？
A とつつきにくくて、独特な世界観があるイメージ。実際に観てもその世界観はあったんですが、意外とストーリーに入り込めました。(会社員)

Q ストーリーは楽しめましたか？
A 後半にだんだんと面白味が増したように思います。あとたまにくるシユールな笑いもおもしろかったです(笑)。(公務員)

Q 意外とそういうのも家族らしいところかも。家族ってずっとシリアスかというところでもなくて、ナチュラなボケが入ってくるのも、ある意味リアルだなと思えました。(広報)

Q チラシ一枚に演劇の魅力を全て詰め込むのは難しいんじゃないかと感じました。結局は一回舞台を見に行ってみないと魅力を実感できないかな。(デザイナー)

Q 数居高い、チケットが高い、内容が難しそう。なぜかネガティブなイメージが付きまとう演劇。実際のところはどうか。今まで演劇を見たことのない4人に、演劇を見てもらい、観劇後に感想を聞きました。

嘘と生きる

地方にて、

アルカス演劇さーくる

高校生エンゲキ体験

2/23(土) - 2/24(日) ※両日参加が条件

23(土)15:00 - 19:00

24(日)13:00 - 17:00

アルカスSASEBO第1リハーサル室

参加資格：市内、近郊の高校生

参加費：無料

定員：16名(人数に達し次第受付終了)

ファシリテーター 宮原 清美 …… 2018年アルカス演劇さーくる
「マグリシアの花たち」演出担当



© おかざきゆか

”エンゲキ”でカラダとココロをリラックス!? 高校生の皆さんにそんな時間をお届けします。俳優・声優に憧れているアナタ、面接で緊張しちゃうアナタ、なかなか友達が出来ないと悩むアナタ……。

演劇を通して自分と向き合い、他者とつながる体験してみませんか? 演劇さーくるの次回作に出演のチャンスもありますよ!

アルカス SASEBO 提携演劇公演

RAWWORKS 「素敵じゃないか」

3/2(土) - 3/3(日)

2(土) 開場18:30/開演19:00

3(日) ① 開場10:30/開演11:00 (子どもウェルカム公演)

② 開場13:30/開演14:00

アルカスSASEBO第1リハーサル室

料 金：一般 2,000円 / 学生 1,000円
(日時指定・自由席)



長崎を拠点に活動する劇団RAWWORKSが、九州各地の才能を集めてお届けする「命のコメディ」。「子どもが欲しい」と「自由が欲しい」、二組のカップルの物語です。



毎月、市内文化施設のイベントカレンダーを佐世保市ホームページ、facebook ページ「文化のチカラ」に掲載しています。